

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393600230		
法人名	株式会社 サカイ		
事業所名	グループホーム あじさい「小杖」1階		
所在地	〒483-8412 江南市小杖町寺之内114番地		
自己評価作成日	令和4年12月29日	評価結果市町村受理日	令和5年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあじさいの理念である、「いもりどりのあじさいのようにその人らしく」認知症高齢者が安心して暮らし、生きる喜びを実感していただき、「その人らしく最後まで」を支援していきます。ご利用者様にとって『もう一つの我が家』と思って頂ける環境を作り、そして、地域の人々が将来にわたり、安心して質の高い介護を受ける権利を享受できるように、介護に関する質の向上と後継者の育成に力を注ぎます。
毎朝の散歩を日課とし、季節を感じていただき、体力の維持に取り組んでいます。また食事作り、洗濯物干しやたたみなど、ご利用者様のペースと一緒にさせていただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osyoCd=2393600230-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年1月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、小規模多機能事業所と併設して運営していることで、地域で生活している利用者や家族の様々なニーズに対応した支援が行われている。利用者の中には、小規模多機能からグループホームへ生活場所を移行された方もあり、利用者にとっては生活場所の円滑な移行にもつながっている。今年度に入り、小規模多機能についても本格的に稼働が始まったことで、今まで以上に事業所間で連携した利用者への支援につながっている。地域の方との交流も徐々に関係が深まっており、地域の方が近隣の公民館を使用する際には、ホームの駐車場を活用してもらおう等、地域貢献につながる交流が行われている、地域の方とは、今後に向けて、地域の小学校との交流の働きかけや地域交流スペースの活用について検討を重ねる等、今後の取り組みが期待される。また、職員研修の取り組みについても、運営法人全体で年間を通じて実施しており、職員の資質向上につなげる取り組みを継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所に事業所理念が貼りだされて掲示されている為、朝礼時に確認して実施している。	運営法人の基本理念及びホーム独自で理念を支援の基本に考えながら、日常的な申し送りの時間に理念を唱和する取り組みを継続している。また、職員一人ひとりが目標をつくる取り組みを行いながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナにて難しい部分が多いが、散歩などで顔を合わせるとあいさつや短い会話がある。	ホームからの働きかけを行いながら、感染症問題が続いている状況の中でも地域の方との交流の機会をつくり、ホームを知ってもらう取り組みが行われている。また、近隣の小学校との交流の機会をつくるために、ホームからの働きかけが行われている。	地域交流スペースの活用等、地域の方との交流を考えており、ホームの今後に向けた前向きな取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の利用者様を理解しながらサービスを提供させて頂いている。 地域の方の認識はあるが、コロナにて他者との交流が困難。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議は行われているが、職員が共有出来ているかは疑問。	会議については、書面による実施が続いており、関係者に運営状況等を詳しく記載した書面を通じて報告が行われている。また、家族にも会議に関する資料の提供が行われており、ホームへの理解を深めてもらう働きかけを継続している。	会議については、書面による実施が続いていることもあるため、今後の会議の再開に向けた取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	主に管理者が窓口となり行っていると思う。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、併設の小規模多機能を通じて行う等、事業所全体で関係づくりが行われている。また、市内の介護事業所が集まる連絡会等が開催される際には、リモート方式を含めて参加する機会をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設より身体拘束の内容が記載されている資料が配布される為、それに基づいて実践している。身体拘束0会議を行っている。 玄関の施錠は行われているが、外からの侵入者予防のためであり、身体拘束はされていない。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内に施錠を行わないように職員間で利用者の見守りが行われている。また、利用者一人ひとりのリスクを踏まえた身体拘束に関する検討や定期的な職員研修の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設での虐待研修を開催して、職員は参加することで虐待が犯罪であることを意識・理解することが出来ている。 職員全員、意識しながら対応出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	該当するご利用者がいない。 職員全体では学ぶ機会があまりない。 わかっていない方が大半だと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様や家族と対話をし、不安や疑問などはその都度確認し、対応を行っている。 管理者・ケアマネ等が行っているし、家族等の不安は聞いたことが無い。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	会議を開催する際に利用者様、家族様の意見や要望などを共有し、皆で話し合いながら決定した場合は他職員にも周知している。 面会や電話などを行い、反映に繋げている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、玄関ホールで面会する等、可能な範囲で交流が行われている。運営法人でアンケートを実施しており、家族からの要望等の把握が行われている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	感染症問題が起きていた時に開設したこともあり、家族との交流会が実現できていない。今後の感染症の状況もみながら、家族との交流会が実現することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	相談させて頂いた際には、親身に傾聴して下さり、行動に移して下さっている。 ケアのフロア会議などで管理者・ケアマネ等は意見を聞いているように思う。 半分半分だと思う。	毎月の職員会議や日常的な職員間での情報交換を行いながら、職員からの意見等を管理者を通じて業務改善等につなげている。また、職員が「ホーム担当」を持ち、運営法人全体で職員からの提案等を吸い上げる取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	環境を整えて下さっている。 努めているように思う。 職員によって感じ方が違うと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修期間を設けて下さっている。 研修には力を注いでくださっており、トレーニングの場は設けられていると思う。 今後の施設状況にかかわるので、力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流を通じたネットワークづくりの勉強会の機会を支援くださった。 外部との交流はコロナ禍の為、最小限になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様の訴えや表情を観察しながら必要に応じサービスや支援を行っている。 入居後、ご家族様と職員で連携し、情報の共有を心掛けている。 未経験や外国の職員もいるため様々。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様から話を傾聴することで良い関係づくりにつながっていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	「その時」を真摯に受け止めて、その後に他のサービスの提案もさせて頂いている。 その時その時、何が利用者様に必要か考え支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	あいさつをはじめとし、日頃から楽しく会話出来ている。 話しかけや思いなど、時間の空いた時に行われていると思う。 お手伝い等、色々と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人様と話す機会を持てるよう、支援している。 家族に状況を伝えて、家族の思いも確認できていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	人や場所よりかは、思い出や好きな事などの支援に努めている。 コロナ禍で事業所への出入りが不自由であり、できる部分と出来ない部分があるが、努力はしている。	併設事業所を含めて、地域の方が利用している際には、お互いに交流する機会をつくる等、現状で可能な範囲で関係継続の支援が行われている。また、家族との外出についても、身内の方の葬儀に出かける等、馴染の方との交流にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	支援に努めている。 仲の良い方と話されている。また、利用者全員でレクなども行っており、良好だと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	努めさせて頂きたい。 退所してからは会う機会はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限りしたいと思っている。 施設を自宅だと思っていただくことが大切だと思う。 個人を尊重した暮らし方、本人様の思い、意思の把握に努めている。 本人に希望と意向を聞いている。	職員間で利用者を担当する取り組みや一人ひとりにつくられている支援経過ノートも活用しながら、利用者や家族の意向等の把握が行われている。また、随時のカンファレンスを実施し、利用者や家族の意向等の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	カルテを参照しながら、個々の情報に基づいて支援させて頂いている。 努力はしているが、できない部分もある。 日々の生活に生かすのが課題。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めている。 情報の共有が行えている。 利用者様に対し、気配り、目配りを行い、日頃の様子を観察し、把握できる努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	意見交換しながら介護計画を行っている。 作成も、カンファレンスを開き、計画立案している。家族に事前に電話や定期的な面会時などで伺ってはいるが、会議自体に家族が参加していただくのは現在は困難。 週3回のカンファレンスを行っている。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等な合わせた対応が行われている。職員間で支援内容に関するチェックを行い、担当職員も参加しながら毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	体調変化や行動に気づき、他職員と情報を共有しながら検討して実践している。 支援経過ノートに記入し、毎日読む事で、情報共有し、計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	プロセスを踏みながら多方面で物事を考えて支援を行っている。 今後の課題だと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	残存機能を生かし、安全で、又、地域資源を活用して暮らしを楽しめるように支援している。コロナ禍の為困難な部分もあるが、努力はしている。ご自身でできることは最大限にできるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療との連携は、管理者がとても丁寧に対応して下さっている。 週2回(内科・歯科)訪問診療を受けている。	協力医による医療面での支援が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については、家族による対応の他にも職員による支援も行われている。また、看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	小さなことでも聞いて下さるので、相談しやすい。 情報・気づきを看護師に伝えてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報が上手く伝わらずに、直前で慌ててしまうことが何度かあった。 情報交換出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	チーム全体で支援に取り組んでいる。経験不足もあり、このような状況にならないとわからない。現在症例があまりないが、家族との話し合いは努力していると思う。 職員で情報を共有している。	身体状態が重い方も生活を継続しており、ホームでの看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを行いながら、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。また、職員研修の取り組みも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	身につけていきたいし、伝えていきたい。 介護自体が初めての職員もおり、現在進行中と思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	会議などで話し合いをしているので大丈夫だと思う。 対策はたてられており避難訓練も行っている。ありがたいことに今までまだそういう場面にあつたことがない。 避難訓練を行っている。	併設事業所とも連携しながら、2か月に一回の避難訓練を実施しており、年間を通じた災害対策の取り組みが行われている。水害が想定される地域でもあり、水害想定への対応も行われている。また、水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	当ホームの開設時から感染症問題が起きていたことで、地域の方の交流が困難な状況でもあったが、今後の状況をみながら、地域の方との災害対策に関する協力関係が深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応している。 心掛けており、職員同士で声を掛け合っている。	職員による利用者への対応や言葉遣い等については、運営法人の専門の委員会でも検討が行われており、職員への指導等につなげている。また、日常的にも管理者が気になった際には、随時の注意喚起等も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	質問させて頂き、利用者様の意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時の状況で替わりますが、出来る限りその方のペースに合わせて支援させて頂いている。実際は難しい所もあるが、職員都合にならないよう意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	常に気をつけている。 利用者様に服を選んで着ていただいている。 男性の利用者の髭剃りが出来ていない時がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員によっては難しい場合もある。 同じメニューが続いたりしているので、改善が必要。 調理や盛り付けなど一緒に行っているが、コロナの為、一緒に食事は出来ていない。 一緒に行っている。	職員でメニューを考え、利用者の好みや嗜好等に配慮し、利用者も調理や片付け等のできることに参加している。おやつ作りや季節に合わせた食事の提供も行われている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量の確認、作業(レク)の合間に水分補給していただくなど、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	介助が必要な方には口内を見ながら行っている。 困難な利用者は歯科医と連携をとって出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	常に利用者様に合った対応を考え、実行している。 歩行できる方、車椅子の方もトイレでの排泄をしていただいている。	利用者の排泄記録や特記事項等を支援経過ノートにも記載することで、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、医師や看護師と連携した医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	行っている。(牛乳や水分補給の援助など)もう少し、運動を取り入れたいと考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	利用者様へのお誘い時は、無理強いないと思う。 職員が人数にとらわれており、利用者様が楽しく入浴出来ているか難しい。 1番に入りたい人、しまい湯がいい方など話を伺っている。	利用者が週2～3回の入浴ができるように、時間も午前と午後に対応している。入浴を拒む方にも声かけを検討しながら、定期的な入浴につなげている。併設事業所の浴室にリフトが設置されていることで、身体状態に合わせた支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	支援している。(疲労感が見られた際は、休養を促している) 全体的に早めの入床が多い。(本人の希望もあり) 不穏時も各フロアで協力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬については、常に気をつけて対応させて頂いている。 申し送りや話し合いなどで、薬の詳細を確認し、服薬に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションや行事などが工夫するよう心掛けている。 「お手伝いして頂いている」という感謝を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出は困難だが、毎朝の散歩は少数で繰り返し行われている。 歩行が不安がある利用者「は、車椅子で積極的に散歩を行っている。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、日常的にホームの近隣を散歩する機会をつくる等、可能な範囲で支援が行われている。近隣の方の協力を得ながら庭に咲いている草花を見に出かける機会もつくられている。また、自動車を活用したドライブも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	必要な時は、いつでも使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要時、支援している。 電話をすることはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様の希望に寄り添いながら環境づくりを努力している。 季節の物を飾ったりしている。 3年目で汚れが目立つようになってきているので、どのようにしていくか改善が必要。 季節の物を作成する。	ホーム内は広く、ゆったりとした空間が確保されていることで、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、利用者の作品や季節感にも配慮した飾り付けも行いながら、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の希望に添いながら席の配置など環境づくりを工夫している。 利用者様によって様々な過ごし方にあり、それらを抑制することなく対応するよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様の希望に寄り添いながら環境づくりを工夫している。 利用者様が使用していたものを持参していただいている。 毎朝モップや掃除機かけなど行い、利用者様が気持ちよく利用できるよう心がけている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた好みの物等の持ち込みが行われている他にも、居室内を移動しやすいように家具類の配置を行う等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、家族の写真や自身の作品を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様が得意とされる事を生かして頂き、安全で自立した生活が送れるように支援している。 利用者様が出来る事を行っていただいている。 杖の場所や座席の配置など対応している。		